

第3回大阪広域ベイエリアまちづくり推進本部会議

《議事概要》

- 日 時：令和3年5月11日（火）13:30～14:30
- 場 所：大阪府新別館南館8階 大研修室
- 出席者：会議資料「出席者名簿」のとおり
- 要旨

○開会

（司会）

定刻となりましたので、ただ今より、第3回大阪広域ベイエリアまちづくり推進本部会議を開会いたします。

本日はご多忙の中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。私は本日の司会進行を務めさせていただきます事務局の大阪府住宅まちづくり部まちづくり戦略監の尾花と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、本日は新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言期間中であるため、ウェブ会議システムとの併用による開催とさせていただきます。

また、そのような意味から、沿岸市町の市長、町長様をはじめ、Webリモート上のご出席を賜ってございます。後ほど各地域の取り組みなどについてご紹介をいただくこととなっておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは開会にあたりまして、推進本部、本部長の吉村知事よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願い致します。

本部長（吉村知事）

本日、第3回の大阪広域ベイエリア推進本部にご出席いただきまして感謝を申し上げます。現在、大阪は新型コロナウイルスの感染状況が非常に厳しい状況にあります。今、大阪府は、市町村とともにこの感染対策の徹底と、そしてこのコロナを乗り越えていくということで、今そこにパワーを集中して、今実行しているわけであります。

そして、当然このコロナの先のですね、大阪における成長戦略、これもしっかりと進めていく必要があります。

特に、今回大阪は2025年の大阪・関西万博またその後の統合型リゾートIR等と含めて様々な取り組みが進んでいるところでありますが、大阪全体の広域のベイエリアをどうしていくのか、非常に重要であります。成長する都市というのは広域のベイエリア、特にベイエリアですね、これが非常に発達しているわけであります。今まで大阪において、なかなかこのベイエリアの広域的な視点での成長戦略を実行することができてきませんでした。大阪府、大阪市、堺市また泉州沿岸市町の皆さんにも御協力いただきまして、大阪ベイエリ

ア、広域のベイエリアの戦略ということをしかりと組み立てていきたいと、それが大阪の成長に繋がるというふうに思っています。

本ビジョンはですね、まさにこの大阪の広域ベイエリアの全体像をどうしていくのかということをはっきりと位置づけをして、その指針を作ってまいりたいと、そのビジョン案を取りまとめていきたいと思えます。そして、この大阪から大阪市、堺市そしてこの泉北に向けて、この大阪全体のベイエリアが、まさに日本の中心的なベイエリアに成長するような、その土台をこのビジョンで作り上げていきたいと思えますのでよろしく願います。ありがとうございました。

(司会)

出席者の紹介につきましては、配付の出席者名簿および配席図をもってかえさせていただきます。また資料につきましては、次第に掲載しているものをお手元にお配りをしてございます。万が一、資料の不足等がございましたら、挙手にてお知らせくださいますようお願い申し上げます。

大阪広域ベイエリアまちづくりビジョンにつきましては、昨年8月の第2回推進本部以降、事務局において実施しました沿岸市町や関係団体、民間事業者などとの意見交換や、堺旧港部会における議論などを踏まえまして、ビジョンの素案を取りまとめ、先だって3月末に田中副知事を幹事長とする幹事会にお諮りをし、ご議論をいただいたところでございます。

本日はその内容を報告させていただき、皆様のご議論を賜りたいと存じます。それでは、議事次第に基づきまして、議事を進めさせていただきます。

まず、大阪広域ベイエリアまちづくりビジョン(素案)について、事務局の大阪府より説明をし、続いて、堺旧港周辺まちづくりについて、事務局の堺市より説明を申し上げます。それではよろしくお願いいたします。

(事務局・大阪府)

それでは、「大阪広域ベイエリアまちづくりビジョン(素案)」について説明させていただきます。お手元の資料1-1、ビジョン要約版をご覧ください。

2ページをご覧ください。まず、「大阪広域ベイエリアが目指す姿」のコンセプトですが、「クレセント リンク おおさかベイ」～大阪湾を舞台に、最先端技術、由緒ある歴史・文化と豊かな自然が調和し、世界とつながる、ヒト・モノ・コトの交流と成長～ としました。「クレセント」は、「三日月形のもの」、「月が次第に満ちる・成長する」の意味を持っており、本ビジョンでは、大阪の臨海部の形状が三日月型であり、未来に向かい成長していく様を表しております。また、「リンク」は、「つなぐ」「きづな」などを意味し、大阪ベイエリアにおいて、多様なヒト・モノ・コトがつながる様やその場を表しております。

具体的な目指す姿として、「世界中の人を惹きつける文化・観光エリア」、「世界とつなが

り、新たな価値を生み出す産業エリア」「様々な恵みと潤いをもたらす海辺環境エリア」と、それらを支える「誰もが安全・安心で快適に活動できるスマートなまち」としております。

また、その目指す姿の実現に向けた取り組みの方向性としましては、各地域の特徴を生かしながら、地域資源や既存ストックを磨き、それらを連携ネットワーク化して繋ぎ、その取り組みを広域に広げるとともに、目指す姿の実現に向けた様々な取り組みを育てる。

これらを「みがく・つなぐ・広げる・育てる」ことで、大阪広域ベイエリア全体の魅力を高めてまいります。

3 ページをご覧ください。目指す姿のイメージを示しております。

文化観光エリアとしては、世界第一級のエンターテインメントと大阪関西の歴史・文化が融合した国際観光拠点、四季折々の多様な食の提供やナイトカルチャーの充実など、産業エリアとしては、最先端の物流拠点や世界水準のMICE施設など。

続いて4 ページ目でございます。海辺環境エリアとしては、居心地の良い親水空間等によるワーケーション、大阪ブルーオーシャンビジョンの実現など、スマートの街としては空飛ぶ車など、多様な交通モードによるシームレスなサービス。様々な社会変化やリスクに対応できる対応性、強靱性を備えた街など、これらを目指す姿としております。

続きまして、6 ページから各市町において、地域資源を活用しながら進める取り組み「みがく」取り組みを示しております。特に7、8 ページには、図面に破線で丸囲みしておりますが、各市町が重点的にまちづくりに取り組む10の重点エリアにおける取り組みを示しています。

7 ページをご覧ください。見開き左上の「大阪・堺地区」では、「夢洲」「咲洲」「築港・天保山」「堺浜」。そして、「堺駅・堺旧港」の4つのエリアを中心に、主に先端と歴史文化、海辺環境を生かした国際観光・交流の促進、スマートなまちづくりの促進を図ります。

左下の「堺泉北地区」では、「浜寺水路周辺」「泉大津旧港周辺」を中心に、主に、重化学工業や物流等の産業の国際競争力の強化、都市ストックを活用した交流機能の向上を図ります。

次に8 ページ右上の「岸和田～泉佐野地区」では、「岸和田旧港周辺」を中心に、主に公共空間を活用した観光・交流・集客機能の向上、製造業や水産業等の多様な産業の振興を図ります。

中ほどの「関空・りんくう地区」では、「りんくうタウン」を中心に、主に空港との近接性を活かしたウォーターフロントのにぎわい創出・国際交流の促進を図ります。

「阪南～岬地区」では、「深日港・多奈川臨海」「みさき公園」を中心に、主に海洋性レクリエーション、自然環境保全による憩い・癒しの創出、港を拠点とした回遊性、アクセス性の向上を図ります。

なお、これら各市町の重点エリアの詳細については、本編の17 ページから記載しております。

続いて、9 ページ 10 ページをご覧ください。「つなぐ」「広げる」の取り組みでございま

す。

左上からご覧ください。

大阪湾は古くから海上交通の要衝であり、近年、夢洲の新たな動き等により、海上交通への期待が高まりつつあるとともに、淀川では大堰閘門の設置など、海と川をつなぐ新たな動きが出ています。

右上、また大阪は、社会を中心に100年以上前から自転車部品を製造しており、自転車利用率も高い状況にあります。近年、自転車利用者がさらに増加するとともに、IoT技術の進捗により、都心部や観光地でシェアサイクルが普及しています。またコロナ禍を受け、自転車への関心がさらに向上しているところです。

これらを踏まえ、海上交通や自転車で各地の魅力ある地域資源を繋ぐとともに、相互に連携させることで、新たな人の動きを創出し、併せてベイエリアの魅力を感じながら、ゆっくりと移動を楽しむ環境を整えるため、「海上交通」と「サイクル」を、特に重点的な取り組みの2本柱として進めていきます。

左側、海上交通につきましては、大阪湾内の拠点を結ぶネットワークを充実させることで、多様な移動手段の確保、ベイエリアの回遊性の向上を図ってまいります。あわせて、海の駅などの活用により、海洋性レクリエーションの活性化を図るとともに、周遊クルーズの充実等により、エリアの魅力を高めていきます。

さらに、大阪湾と瀬戸内西日本等を結ぶネットワーク、水の回廊水都大阪、淀川大堰閘門の設置により、活性化が期待される淀川舟運と連携したネットワークなどの充実により、広域的な人の動きの創出を目指します。

右側のサイクルにつきましては、大阪広域ベイエリアは、琵琶湖と淡路島の間位置しており、泉州サイクルルートや海上交通を活用しながら、各サイクルルートを繋ぐ広域サイクルネットワークを形成し、新たな人の動きを創出していきます。

併せて、安全に通行できるサイクルルートの設定や、シェアサイクルの効果的な活用により、臨海部の回遊性や内陸部からのアクセス性の向上を図ることとし、具体的な取り組みとして、内陸部と夢洲を含む結ぶサイクルルートの整備などを進めてまいります。

次に11ページをご覧ください。「つなぐ」「広げる」取り組みの「海上交通」と「サイクル」のほか、「ストーリーやテーマでつなぐ」「人と場所や取り組みをつなぐ」「広域に広げる」といった視点でも取り組みを進めてまいります。

さらに、新たな事業や活動が継続的な取り組みとなるよう、公民が連携した初動期の支援や担い手の育成など、“育てる”取り組みを進めます。

12ページの「2025年に向けた取組み」については、後ほど改めてご説明いたしますので、13ページをご覧ください。ビジョンの実現に向け、今後の社会状況の変化にも対応しながら、この相関図にお示ししているように、民間主導という基本的な考え方のもと、民間等と行政機関が連携、調整しながらまちづくりを進める必要がありますので、まちづくりに関わる様々な主体がビジョンを共有し、それぞれの役割を果たすとともに、さらなる連携を深め、

相乗効果を発揮するように取り組んでまいります。

次に、「2025年に向けた取組み」および資料2「大阪広域ベイエリアにおける主な取組み」についてご説明します。

12ページと、資料の2をご覧ください。

2050年の大阪広域ベイエリアの目指す姿の実現に向けましては、本ビジョンを踏まえ、様々なまちづくり主体が連携し、まちづくりを推進してまいります。

特に、夢洲において2025年に開催される大阪・関西万博では、国内外から大阪のベイエリアが注目され、多くの人々が来訪することから、沿岸市町の地域資源の魅力を高めるとともに、それらを連携させる「つなぐ」ことで、ベイエリア全体の魅力向上に繋げる必要があります。

そこで、2025年に向けた取組みとして、重点エリアにおけるまちづくりを進めるとともに、海上交通や広域サイクルによる地域資源等の連携強化を進めます。

さらに、資料2は、大阪府や大阪市、堺市などの主な取組みをまとめております。このように関係者の取組みをパッケージ化して、対外的にお示しすることにより、民間事業者の機運醸成や、住民の意識向上につなげてまいりたいと考えております。ビジョンの説明は以上でございます。

(事務局・堺市)

堺市都市再生部でございます。

資料3、堺旧港周辺まちづくりについてご説明させていただきます。堺旧港周辺のまちづくり部会で検討し、取りまとめたものになります。部会長を、大阪府の前まちづくり戦略監、寺前様に務めていただきました。部会は行政だけではなく、民間事業者の方にもご参加いただき、議論を重ねました。また、有識者の方々にも個別にヒアリングし、専門的な知見からアドバイスをいただきました。

では資料に沿ってご説明させていただきます。

1ページ目でございます。堺旧港の歴史・ストーリーを整理しております。

堺の港は中世以降、人、モノ、情報が行き交う国際貿易都市として繁栄。「もののはじまりなんでも堺」の原点であり、堺は海から発展してきました。江戸時代に作られた堺旧港や環濠が、現在の堺のまちの骨格を形づくっています。今もこのような歴史を通じ、包丁や自転車などの伝統産業が受け継がれています。

2ページ目です。上位計画となる「堺グランドデザイン2040」と「大阪広域ベイエリアまちづくり」です。

3ページ目をご覧ください。次に堺駅・堺旧港周辺の役割や、市内外の他拠点との関係性を整理しております。堺旧港エリアは、なにわ筋線の開業により、国土軸、関西国際空港などとのアクセス性が高まる中で、そのインパクトを市内各拠点に誘引させるゲートウェイとしての役割が期待されているところでございます。

4 ページ目でございます。活性化の方針ですが、社会情勢の要請を踏まえ、整理いたしました。「新たなライフスタイルとイノベーションがあふれる都市」、「オンラインで代替し難い体験の提供」といったところに視点を置きました。

5 ページ目でございます。次に、現状・課題とポテンシャルですが、国道 26 号や擁壁で、市街地と海が分断されており、アクセス性などの課題がある一方で、有するポテンシャルとして、市街地や駅と水際線が近いこと、堺旧港護岸後背地に開発可能性のある事業用地が存在するといった点でございます。

6 ページ目です。部会や有識者からの意見を踏まえ、エリア活性化の方針を、「堺の歴史を紡いできた水辺から新たな活力を生み出し、さらに広域へと波及させていく」とし、大きく四つの項目で取り組み方針を整理いたしました。説明は割愛させていただきますが、資料の左の部分が部会や有識者からのご意見でございます。

7 ページ目になります。ここまで整理した考え方をもとに、活性化のコンセプトを堺がここから始まったことを意識し、「“Mizube” , Re-Design」としました。水辺から都市再生を始めるんだという気概を表現いたしました。魅力創出の拠点としての機能強化と、回遊ネットワークの構築、これを両輪で動かし、活性化を進めてまいります。変化を水辺から先導し、スモールエリアでの回遊性を高めながら、水辺とまちが結節し、まちの顔、玄関口にふさわしい都市機能の集積、さらには市内拠点エリア、ベイエリアと連携し、その効果を広域へと波及。地域や民間と一緒に、エリアの価値を育て、持続的に発展させることで、海・水辺から新たな活力を生み出していきます。

8 ページ目です。先ほどの 4 つの取り組み方針ごとに進めていく施策を整理しております。説明は割愛しますが、まず先導的に取り組むものとして、左上の堺旧港の親水護岸を活用し、交流機能を導入していきたいと考えております。

9 ページ目は、将来の地域や来訪者の方々のイメージシーンとなっております。

10 ページ目でございますが、最後にターゲットとロードマップでございます。万博開催の 2025 年を意識し、2030 年までを短期・中期、2040 年までを長期と設定しております。

まず、今年度はビジョンの実現に向けた機運の醸成を図る段階とし、試験的にエリアの可能性などを見える化し、民間および地域の参画を促すとともに、エリアの認知度向上、利用の機会を増やしつつ、同時に将来の中間支援組織を担う人材の発掘をしていきたいと考えております。

次年度以降も引き続きこのような取り組みを進めながら、徐々にターゲットを広げ、護岸後背地の利活用により、変化を先導することで機運を醸成。駅前などの都市機能強化、回遊性向上、海上交通の導入などを進めることで、堺旧港周辺エリアの活性化を図ってまいります。説明は以上でございます。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、泉州沿岸の各市町の皆様より、それぞれの取り組み等についてご紹介を賜りたいと思います。時間の関係もございますので、本日Webリモートでご出席をいただいております市長、並びに町長の皆様よりお願いしたいと思います。

本日は5名の皆様のご出席を賜っておりますので、私から次の順、北からになりますが、泉大津市、忠岡町、岸和田市、阪南市、岬町の順で指名をさせていただきたいと存じます。よろしく願いをいたします。

それではまず、泉大津市の南出市長様、よろしいでしょうか。

(泉大津市 南出市長)

はい。大丈夫です。

皆さん、こんにちは。どうぞよろしくお願い致します。泉大津市長、南出賢一です。

大阪のこの湾岸ベイエリアのビジョンに相乗効果が生まれるような取組みを泉大津市としてもやっていきたいと考えております。大阪・関西万博の共創パートナー自治体第1号で登録をさせていただきました。

これから社会実証実験をどんどんやっていこうというこれらの意思表示であります。この港の周辺の動きにつきましては、一つテーマが、やっぱり水と森、これが非常に大きなテーマになっています。

そして、泉大津フェニックスは、関西最大級の未利用空間で、この資料でいいますと、資料1-1 大阪広域ベイエリアまちづくりビジョン素案の中の24ページ。ここに今、動き出しているような具体的な取組み、ビジョンが掲載されていますので、細かい部分はこちらを見ていただけたらありがたいなと思っております。

泉大津フェニックスは、夏フェスの一つの聖地になっていますけども、将来的にはですね、やはり今これ環境観測点で、メタンガスが出ているような広大な、11ヘクタールありますが、万博に向けてやっぱり命輝く未来社会のデザインということで、こういった土を自然科学の力で自然の土に戻しながらですね、レクリエーションが生まれるだけではなくて、一つ、1次産業で食料の一大生産拠点とレクリエーションを交えたような交流空間ができないかというふうに考えております。

またフェニックスの中では、今、海釣り大会の実証実験を官民連携でやりながらですね、できるだけこの大阪府民ないし関西の方が水辺に触れられるような、活用ができないかということで様々な模索をやっています。

さらには泉大津もそのあたりを見ますと、緑地が非常に多くて、港湾緑地で先端の部分に緑地があったりですね、まだまだ活用されてない部分があります。

今、直近で起き出しているものでいいますと、泉大津マリーナのところのなぎさ公園、こちら昨年バーベキューの実証実験をやったのですが、これ民間事業者の進出アピールにあったこの流れからですね、今年はグランピングのBBQ空間を完全に民間の投資で実現を

やりながら、環境も整備をやっていただきながらこの賑わいを作っていくとそういった事業、一つ一つ港湾局さんとも連携をしながらできるだけこの水辺を活用できるような流れを作っていきたいと考えております。

万博に向けては、この海上交通の拠点としても整備ができるよということと、併せて、この臨海部と内陸部の結節地点で4ヘクタールの森で囲まれたヘルシーパークということで、森で囲まれた緑豊かな空間を作って、完全循環型のエリアを作りながら、科学技術だけではなくて、やっぱり我々自然界の一部でしかないというような部分を、この都市部の中で体現をしながら、港湾部と内陸部を結節しながらですね、一つ選ばれるようなまちづくりをやっていくと、そういった流れをこの泉大津から作っていきたいなと思っております。

まさに本市は高速道路のハブになっているエリアでありまして、和泉の国の、この港の機関として栄えた、こういった地政学的な要素を生かしながら、この泉大津だけではなくて、大阪、日本、世界の課題を官民連携、市民共創で、課題解決のモデル事業を一つでも多く生み出せるような取組みを、このベイエリアをはじめですね、なるべく各地でいろいろとやるための実証実験を進めながら、この港の活性化に向けて頑張っていきたいと思っております。ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございました。

それでは、続きましてよろしいでしょうか。

忠岡町の杉原町長様よろしく願いいたします。

(忠岡町 杉原町長)

皆さんこんにちは。どうも、聞こえていますか。

私どもの忠岡町はですね、海辺、直線距離で800メートルぐらいしかございません。特に府の北部湾岸流域で地先はもうそのまま伸びないという中でエリアに緑道、歩道の緑道がございます。その大津川辺っていうんですか、大津川地先には海釣り公園を形のとっておいているところあります。

それをまた今度はですね、今後活用できたらいいのかなと思っております。先ほど南出市長がいろいろと良いお話をいただいています。泉大津のお隣で、とりあえずベイエリアというお名前の中にはありますが、泉大津と川を中心に両岸で何かができればなということは、私就任以来いろいろ市長さんとお話していますので、その辺はまたご協力の方お願いしたいと思えます。

それと、貯木場ですね。隣接岸和田との貯木場、水深5メートルぐらいと聞いていますが、それを埋め立てが、あれば、私ども忠岡町としてはいろいろ産業の拠点、またはスポーツ施設等々に対することでいろいろと活用方法が広がるかなというところがあります。そのぐらいでございます。

あとは比較的、忠岡町、小さな漁港ではございますけれども、シラス漁港のですね、漁師さんが3軒ありまして、漁業に関しては、小さい湾岸地域の中の小さい漁協ではございますけれども、漁協は盛んにやっております。

比較的この小さい町ではございますけれども、工業地帯の中ではもっぱらびっくりするようなところでもありますのは、化学工場が3社ございまして、元気にこのコロナ禍でも頑張ってくれています。各工場がございまして、ご期待ください。

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

(司会)

ありがとうございました。

それでは続きまして、岸和田市の永野市長様にお願いしたいと思います。永野市長様よろしいでしょうか。お願いします。

(岸和田市 永野市長)

岸和田市の永野です。よろしく申し上げます。

大阪広域ベイエリアまちづくりビジョンにおきまして、岸和田市に関しましては、みなとオアシス岸和田というのがありますが、これを中心とした岸和田旧港地区から地蔵浜地区を重点取組エリアとして設定していただいております。

当エリアでは、商業、水産業、そして文化交流施設といった現状機能の拡充を行い、大阪府様、そして大阪港湾局様と連携して、未活用地への事業者の誘致等に取り組んでございます。

また、地域資源を磨く取り組みといたしまして、本市臨海部の北側から、先ほど忠岡町長からもありました木材港の木材コンビナート貯木場というのがございます。ここ、埋め立てを視野に入れた今後の利活用について、大阪府様、大阪港湾局様と協議、検討しているところでございます。

そして、この木材コンビナートというのは、かつては大変賑わっていたのですが、原木の輸入量というのが減少しましてですね、大部分が未活用の状況になっております。これをいい形で解決していきたいというふうに思っています。

今年度は、利活用方法の調査分析等を実施して、貯木場の利活用ビジョン構想の策定をいたします。地元市としまして、ニーズや構想をまとめて、事業推進に向けて大阪府様、そして港湾局様と議論を進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(司会)

ありがとうございました。

それでは続きまして、阪南市の水野市長様、よろしいでしょうか。

(阪南市 水野市長)

阪南市の水野でございます。

本日、本市につきましては、素案本編の33ページに、取組みなど掲載をしていただいておりますので、私からはかいつまんで、これまでの取組みと、これからの展望について、お話を申し上げます。

本市におきましては、長年、公民連携のもと、海の魅力を活かす取組みを進めております。近年、その努力が実りつつございまして、いくつか事例を紹介したいと思います。

1つ目は子供たちの活動となります。G20大阪サミット配偶者プログラムでは、本市の小学生が、大阪のベイエリアでの自然を守る取組みを世界に発信をしたところでございます。本市の小学校では長年、大阪府では貴重となりました、海辺でのアマモ場の保全再生に取り組んでいます。その取組みの意義と可能性を、2018年、本市で開催をいたしました、全国アマモサミットにおきまして、確認をしたところでございます。その活動が、評価をされまして、海洋教育として発展をしているところでございます。

2つ目は漁業者の皆さんの活動となります。大阪湾初のカキの養殖とカキ小屋の成功です。本市の沿岸では、府内では珍しい自然海岸が多く、漁業者が、長年、その営みを通して環境を維持してまいりました。ワカメの養殖が盛んで、また府内では唯一海苔を養殖しているなど、これが本市の特色となっています。牡蠣の養殖という新しい事業は、漁業者が自ら守ってきた環境を活かそうとして、大阪府立大学や民間企業などと協働で成功させたところでございます。さらに新しい事業に取り組んでいこうという機運が高まっています。

3つ目は、本市が関西圏で先行しております「ブルーカーボン・オフセット制度」の認証を受けての取組みとなります。また、ゼロカーボンシティ宣言を出しまして、SDGsの推進と併せて、温暖化対策や海辺の環境保全に向けて取組みを進めていきたいと考えています。

最後にワーケーションとなります。海岸を望むワーケーションに取り組む民間宿泊施設に、大阪観光局の溝端理事長をはじめ、職員の皆さんが訪れていただきました。この2月には、「都市型、都市部近郊ワーケーション」の第1弾として、本市観光協会と共に取り組んでいくと発表をしていただいております。

これからの展望となりますが、本市としては、まちづくりに取り組んでいる住民、団体、企業を応援し、主体的・自立的なベイエリアの活性化を推進してまいりたいと考えております。

海と山が出会うまち、大阪平野の南端部、海岸部は約8キロございます。商港と2つの漁港、そして3つの漁業組合を持ち、暮らしと営みの中で大阪湾の自然を守り、活用してきたまちといたしまして、万博の理念である「未来を共創する」というまちをぜひとも具現化をしたい。新たな価値の創造やステークホルダーのさらなる確保にコミットしてまいりたいと考えます。

今後多くの方に主体的にベイエリアのまちづくりに関わっていただけるよう環境づく

りや新たな挑戦の後押しをしてまいりたいと考えます。

しかし、残念ながら「みがく」取組重点エリアには指定をされていません。大阪府におかれましては、多くのプレイヤーが活躍しやすい環境づくりのため、里海公園など沿岸部の府営施設などの充実に取り組んでいただきまして、またベイエリアの活用方法につきましては、民間活力の導入など、府市共同での検討を進めていただければと考えております。

本市もベイエリアの活性化に向けまして、今後も積極的に沿岸部の発展に寄与する取組みを進めてまいりたいと考えますので、何とぞよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

(司会)

ありがとうございました。

それでは続きまして、岬町の田代町長様、よろしいでしょうか。お願いします。

(岬町 田代町長)

こんにちは。岬町長の田代です。よろしくお願いします。

まず初めに、吉村知事と他関係者の皆様にはですね、新型コロナウイルスについての対策、いろいろとご苦労をおかけしていることを、まずもってお礼申し上げます。我々どももしっかりと頑張りますのでよろしくお願いいたします。

それでは、資料1-1、ビジョン(素案)8ページの「阪南～岬」における岬町の重点取組について、ご説明いたします。

岬町におきましては、重点取組エリアとして、「深日港・多奈川臨海」と「みさき公園」の大きく2つのエリアを取り上げております。

それでは、「深日港・多奈川臨海」について、ご説明いたします。

まず、深日港の概要についてであります。皆様もご存知かと思いますが、深日港は、かつて、淡路島・四国と南大阪を結ぶ航路の港として賑わいを見せていましたが、関西国際空港の開港により、また、明石海峡大橋の開通を契機として航路の見直しが行われ、平成11年、深日・洲本航路を最後に、全ての航路が廃止された経過がございます。

本町は、かつての深日港のにぎわいを取り戻すため、関係機関とご協議を図りながら、深日港から洲本港の航路再生に取り組むとともに、深日港の空間を活かした「深日港フェスティバル」の開催を初めとしたにぎわいの創出や、災害時の緊急物資輸送等の災害拠点としての整備を進めているところです。

災害拠点の整備としましては、和歌山下津港を基地港とする海面清掃艇「海和歌丸」が、災害時に津波による浸水被害が少ない深日港を代替拠点とするため、平成26年に国土交通省と協定を締結しました。

また平成25年に発生した淡路島地震の際に被害の大きかった兵庫県洲本市へ漁船をチャーターし、緊急支援物資を輸送したことをきっかけに、平成27年に兵庫県洲本市と災害時

には船で物資輸送を行うとした、災害時相互応援協定を締結いたしました。

さらに兵庫県洲本市とは、深日・洲本航路の復活に向け、平成 29 年度から、深日港と洲本港間において、社会実験運航として、「深日洲本ライナー」を運航するとともに、平成 30 年度からはサイクリストをターゲットとし、深日・洲本航路を海上サイクルルートとして機能させ、同資料の 10 ページに記載のとおり、泉州サイクルルートや淡路島を一周するサイクルルートだけではなく、自転車愛好家の行動範囲を関西各所で取組みが進められている各地域へ拡大し、広域的な観光振興の促進を図ることを目的とした「大阪湾をつなぐ！広域サイクル・ツーリズム事業」を共同実施しているところであります。

次に、「多奈川臨海における企業誘致」についてご説明いたします。多奈川臨海地区は、深日港の一面にありまして、関西電力多奈川発電所の跡地で、約 50 ヘクタールの跡地になります。主要地方道路である加太港線の沿道にあり、水道や下水道など都市インフラも完備され、本町の中心部に近いことから、企業立地に効果が、本町全体に波及することが期待される地域であります。

こちらの跡地については、いずれも事業用地として、関西電力と大阪府、岬町が連携して、地域と共存共栄ができる事業者の企業誘致を行うこととしております。

最後にもう一つの重点取組エリアであります「みさき公園」について、ご説明をいたします。まず「みさき公園」の概要についてであります。昭和 32 年に本町が都市公園法に基づく都市公園として開設し、南海電気鉄道株式会社が管理運営を担っておりました。

しかし、南海電気鉄道株式会社は、令和 2 年 3 月末をもって運営から撤退し、63 年間の歴史に幕を閉じたところであります。

本町では重要な集客施設である「みさき公園」を都市公園として存続し、大人から子供まで幅広い世代層に親しまれ、賑わいのある公園とするため、民間事業者の創意工夫を取り入れ、魅力ある新たな「みさき公園」づくりを推進しているところであります。岬町の重点取組については以上の通りであります。

どうか大阪府また関係の皆さんにおかれましては、今後もこの事業に対してご協力賜りますようよろしくお願いいたしまして、私の説明とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(司会)

ありがとうございます。

市長町長の皆様から、沿岸地域のお取り組みについてご説明を賜りました。先の会議資料のご説明とあわせて、説明については以上でございます。

それではここから皆様からのご意見やご提案などを賜りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。ご意見等ございませんでしょうか。

永藤市長様よろしくお願い致します。

副本部長（永藤堺市長）

今回の大阪ベイエリアの大阪広域ベイエリアのビジョンですが、大阪の海の歴史的な背景や特性を捉えて、今後の具体的な取組みにも言及していただいて、非常によくまとまった内容だと思っています。

特に大阪湾を囲む大阪ベイエリア地域は、歴史、産業、エンターテインメント、自然と、本当に層が厚い魅力が詰まっています、その中でも、泉州地域は、大阪の都心部とはまた違ったローカルな魅力が詰まっている地域であります。

これまで、なかなか大阪全体の中では、注目としては、堺も含めてですけど、それほど高くはなかったかなと思いますけど、今、各首長の皆さんからご紹介いただいただけでも、またこの冊子にある内容でも非常に魅力的な内容だと思っていますので、連携しながら、大阪全体のベイエリアの活性化に繋がればいいなと思っています。

一つ、南出泉大津市長からお話がありましたけど、課題解決は非常に重要な視点だと思っています。特に2025年大阪・関西万博、そして今世界的な課題でもあります2050年のカーボンニュートラルという課題もありますので、ベイエリアの魅力であったり交流の促進に加えて、健康長寿であったり、カーボンニュートラルという大きな目標も、全体を網羅できる形で示すことができれば、よりこの大阪の未来を、住民であったり、府民の皆さんに感じていただくことができるんじゃないかというふうに思っています。

堺市としても、この大阪の中で、北部と南部を繋ぐ地域だと考えておりますので、私達も責任を持って取り組んでまいります。以上です。

（司会）

ありがとうございます。その他ご意見賜りますでしょうか。

高橋副市長さん、よろしく申し上げます。

（大阪市 高橋副市長）

まず事務局におかれまして、ビジョンの取りまとめ、ご苦労さまと申し上げたいと思います。

私ども、これから、このビジョンに基づいて、大阪府、大阪市それから各自治体で、今の取組みを進めていますが、本日の資料を見ていると、大阪広域ベイエリアまちづくりビジョン素案というのを今日議論して、ビジョン案という形へ変わるということになるのかなと理解しています。

今後のスケジュールとしまして、これからこの案を取って成案にしていくために、どういった手続きを考えられているのか、例えば大阪府市で設置している副首都推進本部会議や、各議会での議論など、今後どういったスケジュールで成案にしようとしているのか、お考えがあればお教え願いたいと思います。その際に今年度、大阪府市でランドデザイン・大阪の改訂作業を予定しております。そのランドデザイン・大阪との関係について、もし整理

できていましたらお教え願いたいと思います。

最後に、幹事会でいろいろ議論していただきありがとうございますけれども、資料の1-1の1ページのビジョン策定の趣旨の最初の2行のところ、冒頭が時代背景として、室町時代からの説明となっていますが、大阪の歴史を語る際、古代日本の玄関口として難波津が、室町以前から、外交・交通の中心として発展してきた歴史の経過もありますので、それについても触れてもらえたらと思います。ここの修正につきましては、事務局にお任せいたします。

(事務局・大阪府)

事務局でございます。ただいまのご質問ありました、今後のスケジュールでございます。

このベイエリアまちづくりにつきましては、本日の会議を踏まえまして、案として取りまとめさせていただいた後、そのIRなどの状況を踏まえまして、その後、いわゆるパブリックコメントを踏まえて、まとめていきたいなというふうに考えております。

あの確定でございませぬが、我々事務局の考えとしましては、来年度ぐらいに、正式な策定になるのかなというふうに考えております。

それと副首都推進本部会議との関係につきましては、当然、副首都本部会議の事務局とも今後ご協議させていただくことになると思いますけれども、まず、副首都推進本部会議の方で、今この本部会議の立ち上げをご了承いただいたということでございますので、最終まとめた後にはですね、当然、副首都推進本部の会議の方に、きっちりご報告、お諮りして、最終まとめていくのかなというふうに考えております。

繰り返しますけれども、正式な手続きにつきましては今後副首都等の事務局と協議させていただきたいというふうに考えております。以上でございます。

あとランドデザインとの関係につきましては、今回このビジョンの案をまとめたあと、具体の取組みにつきましては、それぞれ進めていきたいと思っております。

(司会)

事務局からでございますが、ご指摘の中にありました今後の新しい大阪全体のまちづくりランドデザイン、これは今回のベイエリアのビジョンとも深く関連するものでございますので、ご説明申し上げました今後の手続きや進め方について関係機関とも協議をしながら、全体として、このベイエリアのビジョンが活かされていくように、まちづくり大阪全体のランドデザインでもご議論を進めてまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

高橋副市長様からの資料の修正点については事務局で預らせていただきます。ありがとうございました。それではその他ご意見ございませんでしょうか。

(司会)

それでは泉大津市南出市長様、よろしいでしょうか。お願いします。

(泉大津市 南出市長)

ありがとうございます。泉大津の南出です。先ほど永藤堺市長から少し名前も出していただきましたので、ご意見を少し申し上げたいのですが、今回のコロナですね、コロナはライフスタイルを変えなさいというメッセージだというふうに思っています。

これ、イギリスのドクターだったらもう海外とかみんな言っているのですけども、つまりこのやっぱり健康な体を取り戻そうと思ったら、医食同源、もう一つある人間の健康を考えるならば、ちゃんとした環境がないと健康は作れないと言う観点に立ったときに、今、安心安全は当たり前なのですけども、世界中の共通のテーマが健康と環境です。

そうなったときに、このベイエリアで、いかにこの自然との調和というのが非常にテーマになってくると思いますし、2025年に向けて、様々自然科学のこういったノウハウ技術っていうのがたくさんあります。

こういった実証実験を、埋立地とか、水辺でしっかりと活用しながら、できるだけ自然の生態系が大阪全体で取り戻すことができるっていうようなそういった流れを、やはり、これは大阪府、基礎自治体が連携をして、様々トライする必要があるんじゃないかなと思っております。例えば、具体的な事象を一つ見ても、今大阪湾では特にシラスとかイカナゴ漁というのが、どこも共通ですけども、非常に不安定です。

この間にやっぱり生態系をどう戻すかっていうようなこの環境に対する施策っていうのは、おそらくこれからのSDGsってこともテーマにしても当然大事になってくると思いますし、ぜひともこのあたりの実証実験を、大阪府あげて我々も共に一緒にやっていけるようなそういったことも、このビジョンの中に反映をやっていただけたら大変ありがたいなというふうに思います。以上です。

(司会)

ありがとうございます。

(司会)

阪南市さんよろしいでしょうか。

(阪南市 水野市長)

少し意見だけ申し上げたいと思います。

ベイエリアを構成するまちの一つとして、ベイエリアの活性化も、ぜひとも尽力をしたいというふうに思っています。その上で、ベイエリア地元市町さんもおっしゃっておられましたけども、やっぱりそれぞれに、エリアの魅力があろうかと思うのですね。

私達の阪南、そして岬に共通した自然海岸、それは山もしっかり担いでおります。こういったところを、こういった価値・魅力を、この大阪のベイエリアの中に位置付けてい

ただけるか。残された自然ではなくて、守ってきた自然。

子どもはその貴重な自然を生かして、漁業も守っていかなければいけないと思います。2025年に、いのち輝く未来社会のデザインを具現化するには、この泉州の南、子ども市町の力をぜひとも発揮をしたいと、そのように思っておりますので、今後ともしっかりと力を合わせていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

(司会)

ありがとうございます。それでは、その他ご意見等ございませんでしょうか。

知事よろしく申し上げます。

本部長（吉村知事）

まずこの大阪全体のベイエリア広域まちづくりをどうしていくかって考えたときにこの大阪、例えば、大阪湾、大阪市、大都市部におけるベイエリアの魅力と、それから先ほど水野市長からありましたけど、阪南市のような自然が溢れているところの魅力と、それぞれ魅力がやっぱり違って、これはその魅力をうまく繋げていく、一体なものにしていくということが非常に重要ではないかなと思っております。なので、そういった、あの三日月型の広域ベイエリアまちづくりのこの姿があるのですが、それをいかに有機的につないでいくのかっていうのを、まず1つ大きな視点を持ってこの戦略を作ってもらいたいと思っております。

2つ目が時間軸です。

これ見ると40何ページかに、短期・中期・長期というふうに記載が40何ページ。46,7ページから、一応、目標年次、参考、短期・中期・長期ってあるのですが、ここ非常に重要なかなというふうに思っています。

一つは2025年が大阪にとってのターゲットイヤーになると思っています。2025年大阪関西万博の期間中、そしてそのときまでの短期でどういうことができるのかっていうのは一つのターゲットイヤーにして、それぞれの市町で、どういうことをしていくのかと、この万博開催中に、例えばその万博開催しているところと、堺や阪南をどう繋いで、どんなことをしていくのか、そういった具体的に、これから行われる大阪の大きなそういった施策の中での位置づけっていうのを、もう少し明確にするために、時間軸もちょっとしっかりした方がいいのかなというふうに思います。

僕は今思う時間軸としては2025年、これをターゲットイヤーにしているのですが、万博があります。「うめきた」なんかも2024年に先行まち開きするわけですが、そのあたりで、かなりいろんな大阪の都心部の絵姿が変わってくることに合わせて万博があるわけですから、そこで空飛ぶ車をやるという、空飛ぶタクシーなんかも出てくると思いますし、あの海運なんかっていうのも舟運というのも関空から万博だけじゃなくて、いろんな市町に繋がってくると。例えば、神戸市にも繋がってくるし、淀川大堰閘門も整備しようというのが、今進めていますから。これは枚方や京都とも繋がってくるということになりますから。

2025年のこの万博のときを想定したその時までにはどういったことをするのか。そのときにどういったことをするのかという短期的な視点が一つ。もう一つは、僕IRだと思っています。

統合型リゾートIR、2020年後半で、もうしばらくしたら時期も具体的に出てくると思いますけども、このIRというのはそれからかなり長期的なものになってくると思いますし、2031年には、なにわ筋線もできると交通体系も大きく変わってくるし、Ma a Sなんかも非常に発達していると思います。

なので、2020年代後半の統合型リゾートIRが動き出す頃そうした、なにわ筋線ができるような2020年後半から2030年あたりを中期として、その時までにはこのベイエリアはどういうふうに変わっていくのか、それに合わせて、まさに作っていけば相乗効果も生まれてくるというふうに思います。

それから、さらに先の長期ビジョンというのは、あの堺でも2040でしたか。そういうのも作っているということですから、短期・中期・長期というよりは、大阪の大きなもうやることがほぼ決まっている大きな施策である2025年の大阪・関西万博、これ短期、そこまで何をするのか、2020年代後半に行われる統合型リゾートIR、これができる頃に広域のまちづくりをどうしているのか、そしてその先の長期ビジョンという形で、3段階ぐらいに分けたロードマップをしっかりと作った方がいいのではないのかなというふうに思いますので、ちょっとこの素案の中のこの目標年次のところが、かなりその時間軸のところがちょっと整理が不十分なのかなと思うので、ちょっとここを検討してもらいたいなというふうに思います。

(司会)

ありがとうございます。時間軸の整理について、事務局でしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

その他ご意見はございますでしょうか。ご意見等ございませんか。それでは様々なご意見、またご提案を賜りましてありがとうございました。

本日のご意見頂戴しましたものにつきましては、当事務局におきまして速やかに反映をいたしましたビジョンの案を取りまとめまして、今後、ホームページ等に掲載するなどにより、府民の皆様にお示しをしてみたいと思いますが、事務局で預らせていただく形でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それではそのように進めてまいりたいと思います。

なお、ビジョン案につきましては、今後、先ほど話題にもなりましたIRの動向なども見据えながら、パブリックコメントで府民の皆様からのご意見をいただくなど、必要な手続きを進めまして、最終の取りまとめを行いたいと考えてございます。

また、可能な取り組みにつきましては、先行して進めていきますために、ビジョン案の実現に向けて、推進体制を整えてまいりたいと考えております。

沿岸市町の皆様やベイエリアに関わる関係者の皆様と連携をしながら、積極的に取り組みを進めてまいりたいと考えておりますので、沿岸市町の皆様におかれましても、引き続きよろしくお願いを申し上げます。

以上で本日の議事は全て終了いたしました。これをもちまして第 3 回大阪広域ベイエリア推進本部会議を閉会します。

皆様、誠にありがとうございました。